

疑問詞	<p>疑問詞は疑問文の前につきます。</p> <p>What「何」、Which「どちら」、Who「誰」、Whose「誰の」、Where「どこ」、When「いつ」、Why「なぜ」、How「どのように」</p> <p>How long は「どの位長く」という意味です。</p> <p>How many ～ は「何個の～」という意味です。</p> <p>How old は「何才」という意味です。</p>	<p>① <u>どのように</u>彼女は英語を勉強していますか？ → ( ) ( ) ( ) ( ) English?</p> <p>② <u>なぜ</u>彼女は英語を勉強しますか？ → ( ) ( ) ( ) ( ) English?</p> <p>③ <u>いつ</u>彼女は英語を勉強しましたか？ → ( ) ( ) ( ) ( ) English?</p> <p>④ <u>どの位長く</u>彼女は英語を勉強することができますか？ → ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) English?</p> <p>⑤ <u>何冊の本を</u>彼女は持っていますか？ → ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) have?</p> <p>⑥ 彼女は<u>何才</u>ですか？ → ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ?</p>
動名詞	<p>動詞+ing を動名詞、to+動詞の原形を不定詞といます。</p> <p>どちらも、「～すること」という意味があります。</p> <p>基本的には、動名詞と不定詞のどちらを使っても構いません。</p> <p>enjoy、stop、finishの後は動名詞しか使えません。</p> <p>want、hope、decideの後は不定詞しか使えません。</p>	<p>① 私は英語を<u>勉強すること</u>が好きです。 → I like ( ) ( ) English.</p> <p>② 私は英語を<u>勉強すること</u>が好きです。 → I like ( ) English.</p> <p>③ 私は英語を<u>勉強すること</u>を終えました。(正しい方に○) → I finished ( to study / studying ) English.</p> <p>④ 私は英語を<u>勉強すること</u>に決めました。(正しい方に○) → I decided ( to study / studying ) English.</p> <p>⑤ 私は英語を<u>勉強すること</u>を望みます。(正しい方に○) → I want ( to study / studying ) English.</p> <p>⑥ 私は英語を<u>勉強すること</u>を楽しみました。(正しい方に○) → I enjoyed ( to study / studying ) English.</p>
不定詞	<p>不定詞は「～すること」以外に、「～するために」「～するための」「～して」などの意味があります。</p> <p>ask 人+不定詞で「人に～するよう頼む」という意味です。</p> <p>tell 人+不定詞で「人に～するよう言う」という意味です。</p> <p>want 人+不定詞で「人が～するのを望む」という意味です。</p>	<p>① 私は英語を<u>勉強するために</u>図書館に行きました。 → I went to the library ( ) ( ) English.</p> <p>② 私は英語を<u>勉強するための</u>本を買いました。 → I bought a book ( ) ( ) English.</p> <p>③ 私は英語を<u>勉強して</u>うれしいです。 → I'm happy ( ) ( ) English.</p> <p>④ 私は彼女に英語を<u>勉強するよう</u>頼みました。 → I ( ) her ( ) ( ) English.</p> <p>⑤ 私は彼女に英語を<u>勉強するよう</u>言いました。 → I ( ) her ( ) ( ) English.</p> <p>⑥ 私は彼女が英語を<u>勉強するのを</u>望みます。 → I ( ) her ( ) ( ) English.</p>
不定詞	<p>It is … +不定詞で「～することは…です」という意味です。</p> <p>for+人「人にとって」を加えることも出来ます。</p> <p>疑問詞+不定詞で「～すべきか」という意味です。</p> <p>how+不定詞は「どのように～すべきか」という意味ですが、自然な日本語に直すと「～の仕方」になります。</p>	<p>① 英語を<u>勉強すること</u>は楽しいです。 → It is fun ( ) ( ) English.</p> <p>② 私にとって英語を<u>勉強すること</u>は楽しいです。 → It is fun ( ) ( ) ( ) ( ) English.</p> <p>③ 私は<u>何を勉強すべきか</u>知っています。 → I know ( ) ( ) ( ) .</p> <p>④ 私は<u>いつ勉強すべきか</u>知りません。 → I don't know ( ) ( ) ( ) .</p> <p>⑤ あなたは<u>どこで勉強すべきか</u>知っています？ → Do you know ( ) ( ) ( ) ( ) ?</p> <p>⑥ <u>勉強の仕方</u>を私に教えなさい。 → Tell me ( ) ( ) ( ) .</p>
接続詞	<p>2つの文をつなぐ語を接続詞といます。</p> <p>ifは「もし～なら」、whenは「～する時」、becauseは「～なので」、thatは「～と」という意味です。</p> <p>thatの前の動詞が過去形だと、後の動詞も過去形になります。</p> <p>接続詞のthatは省略することが出来ます。</p>	<p>① <u>もし</u>明日雨が降る<u>なら</u>、彼女は英語を勉強するでしょう。 → ( ) it rains tomorrow, she will study English.</p> <p>② 雨が降る<u>時</u>、彼女は英語を勉強します。 → ( ) it rains, she studies English.</p> <p>③ 雨が降った<u>ので</u>、彼女は英語を勉強しました。 → ( ) it rained, she studied English.</p> <p>④ 彼女は英語を勉強する<u>と</u>、私は思います。 → I think ( ) she ( ) English.</p> <p>⑤ 彼女は英語を勉強する<u>と</u>、私は思いました。 → I thought ( ) she ( ) English.</p> <p>⑥ 彼女は英語を勉強する<u>と</u>、私は思いました。 → I thought she ( ) English.</p>
感嘆文	<p>How+形容詞/副詞で「なんて～なんだ」という意味です。</p> <p>What+形容詞/副詞+名詞で「なんて～な…なんだ」という意味。</p> <p>後に主語+動詞をつけることもできます。</p> <p>このように驚きを表す文を感嘆文といます。</p>	<p>① <u>なんて大きいんだ!</u> → ( ) ( ) !</p> <p>② <u>なんて大きい犬なんだ!</u> → ( ) ( ) ( ) ( ) !</p> <p>③ 彼は<u>なんて背が高いんだ!</u> → ( ) ( ) he is!</p> <p>④ 彼は<u>なんて背が高い男の子なんだ!</u> → ( ) ( ) ( ) ( ) he is!</p> <p>⑤ 彼女は<u>なんて速く走るんだ!</u> → ( ) ( ) she runs!</p> <p>⑥ 彼女は<u>なんて速い走者なんだ!</u> → ( ) ( ) ( ) ( ) she is!</p>
まとめ	<p>疑問詞は疑問文の前につきます。</p> <p>動名詞と不定詞は、どちらも「～すること」という意味です。</p> <p>不定詞は「～するために」「～するための」「～して」などの意味。</p> <p>It is … +不定詞で「～することは…です」という意味です。</p> <p>thatの前の動詞が過去形だと、後の動詞も過去形になります。</p> <p>What+形容詞/副詞+名詞で「なんて～な…なんだ」という意味。</p>	<p>① <u>どのように</u>彼女は英語を勉強していますか？ → ( ) ( ) ( ) ( ) English?</p> <p>② 私は英語を<u>勉強すること</u>を終えました。(正しい方に○) → I finished ( to study / studying ) English.</p> <p>③ 私は英語を<u>勉強するために</u>図書館に行きました。 → I went to the library ( ) ( ) English.</p> <p>④ 英語を<u>勉強すること</u>は楽しいです。 → It is fun ( ) ( ) English.</p> <p>⑤ 彼女は英語を勉強する<u>と</u>、私は思いました。 → I thought ( ) she ( ) English.</p> <p>⑥ 彼は<u>なんて背が高い男の子なんだ!</u> → ( ) ( ) ( ) ( ) he is!</p>

目的語	<p>目的語とは「～に」や「～を」という語句です。  2つ目的語がある場合、<b>誰に</b> <b>何を</b> という順番になります。  <b>何を</b> <b>誰に</b> という順番にする場合、<b>誰に</b> の前に to がつきます。  動詞が「作る」や「買う」の場合、<b>誰に</b> の前に for がつきます。</p>	<p>① 私は<b>英語を</b>教えます。 → I teach ( ) ( ).  ② 私は<b>彼女に</b>教えます。 → I teach ( ) ( ).  ③ 私は<b>彼女に英語を</b>教えます。 → I teach ( ) ( ) ( ).  ④ 私は<b>英語を彼女に</b>教えます。 → I teach ( ) ( ) ( ) ( ).  ⑤ 私は<b>彼女に(1冊の)本を</b>買いました。 → I bought ( ) ( ) ( ) ( ).  ⑥ 私は<b>(1冊の)本を彼女に</b>買いました。 → I bought ( ) ( ) ( ) ( ) ( ).</p>
比較	<p>as ~ as で「と同じ位～」という意味です。  ～er で「より～」という意味です。  the ~est で「1番～」という意味です。  6文字以上の長い単語は、er をつけずに、more をつけます。  6文字以上の長い単語は、est をつけずに、the most をつけます。</p>	<p>① 彼は私と<b>同じ位背が高い</b>です。 → He is ( ) ( ) ( ) I.  ② 彼は私<b>より背が高い</b>です。 → He is ( ) ( ) I.  ③ 日本の中で、彼は<b>一番背が高い</b>です。 → He is ( ) ( ) in Japan.  ④ 彼は私と<b>同じ位ゆっくり</b>歩きます。 → He walks ( ) ( ) ( ) I.  ⑤ 彼は私<b>よりゆっくり</b>歩きます。 → He walks ( ) ( ) ( ) I.  ⑥ 私達全員の中で、彼は<b>一番ゆっくり</b>歩きます。 → He walks ( ) ( ) ( ) ( ) of us all.</p>
分詞	<p>動詞の ing 形を現在分詞といい、「～している」という意味です。  動詞の過去分詞形は「～される」という意味です。  現在分詞と過去分詞は、名詞を後ろから説明する役割です。</p>	<p>① ベッキーは英語を<b>勉強している女の子</b>です。 → Becky is a ( ) ( ) English.  ② ケンはピアノを<b>演奏している男の子</b>です。 → Ken is a ( ) ( ) the piano.  ③ ポチは机の下で<b>眠っている犬</b>です。 → Pochi is the ( ) ( ) under the desk.  ④ 英語は世界中で<b>話される言語</b>です。 → English is a ( ) ( ) in the world.  ⑤ これは昨日<b>壊された家</b>です。 → This is a ( ) ( ) yesterday.  ⑥ これは彼によって<b>書かれた本</b>です。 → This is a ( ) ( ) by him.</p>
関係代名詞	<p>名詞と文章をつなぐ役割の語を、関係詞といいます。  who は「その人は」という意味の関係詞で、人につきます。  which や that は「それは」「それを」という意味の関係詞で、物や動物につきます。  which や that は「それを」という意味の時、省略できます。</p>	<p>① ベッキーは<b>英語を話すことができる女の子</b>です。 → Becky is a ( ) ( ) can speak English.  ② ケンは<b>ピアノを演奏している男の子</b>です。 → Ken is a ( ) ( ) is playing the piano.  ③ ポチは<b>上手に泳ぐことができる犬</b>です。 → Pochi is a ( ) ( ) can swim well.  ④ これは<b>彼によって書かれた本</b>です。 → This is a ( ) ( ) was written by him.  ⑤ これは<b>昨日私が読んだ本</b>です。 → This is a ( ) ( ) I read yesterday.  ⑥ これは<b>昨日私が読んだ本</b>です。 → This is a ( ) I read yesterday.</p>
否定疑問	<p>疑問文の最初の語を否定形にすると、否定疑問文になります。  Do you speak English? 「あなたは英語を話しますか？」  Don't you speak English? 「あなたは英語を話しませんか？」  どの疑問文も、「する」なら Yes、「しない」なら No です。  否定疑問文の場合、反対の答えにならないよう注意しましょう。</p>	<p>① 彼女は英語を<b>勉強しませんか</b>？ → ( ) ( ) ( ) English?  ② 彼女は英語を<b>勉強しませんでしたか</b>？ → ( ) ( ) ( ) English?  ③ 彼女は英語を<b>勉強しないつもりですか</b>？ → ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) English?  ④ 彼女は英語を<b>勉強することが出来ませんか</b>？ → ( ) ( ) ( ) English?  ⑤ (④の疑問文に対して)はい、<b>出来ません</b>。 → ( ), ( ) ( ).  ⑥ (④の疑問文に対して)いいえ、<b>出来ます</b>。 → ( ), ( ) ( ).</p>
付加疑問	<p>文尾に、否定形+主語をつけると「よね」という意味です。  be 動詞の否定形は、isn't, aren't, wasn't, weren't。  助動詞の否定形は、can't, won't, mustn't, couldn't など。  一般動詞の否定形は、don't, doesn't, didn't。</p>	<p>① 彼女は英語を勉強します<b>よね</b>？ → She studies English, ( ) ( )?  ② 彼女は英語を勉強しました<b>よね</b>？ → She studied English, ( ) ( )?  ③ 彼女は英語を勉強していました<b>よね</b>？ → She was studying English, ( ) ( )?  ④ 彼女は英語を勉強するつもりです<b>よね</b>？ → She is going to study English, ( ) ( )?  ⑤ 彼女は英語を勉強することが出来ます<b>よね</b>？ → She can study English, ( ) ( )?  ⑥ 彼女は英語を勉強することが出来ました<b>よね</b>？ → She could study English, ( ) ( )?</p>
まとめ	<p>2つ目的語がある場合、<b>誰に</b> <b>何を</b> という順番になります。  ～er で「より～」という意味です。  現在分詞と過去分詞は、名詞を後ろから説明する役割です。  名詞と文章をつなぐ役割の語を、関係詞といいます。  疑問文の最初の語を否定形にすると、否定疑問文になります。  文尾に、否定形+主語をつけると「よね」という意味です。</p>	<p>① 私は<b>彼女に英語を</b>教えます。 → I teach ( ) ( ).  ② 彼は私<b>より背が高い</b>です。 → He is ( ) ( ) I.  ③ ケンはピアノを<b>演奏している男の子</b>です。 → Ken is a ( ) ( ) the piano.  ④ ケンは<b>ピアノを演奏している男の子</b>です。 → Ken is a ( ) ( ) is playing the piano.  ⑤ 彼女は英語を<b>勉強しませんか</b>？ → ( ) ( ) ( ) English?  ⑥ 彼女は英語を勉強します<b>よね</b>？ → She studies English, ( ) ( )?</p>